

特別寄稿

## 本学会のこれまでの歩み

白井將文

財団法人博慈会記念総合病院顧問

学会も20年も過ぎると会員の世代交代が進み本学会の設立当時の事を知らない会員も増えていると思いますので、本学会の設立の経緯を少し述べてみたいと思います。本学会は昭和53年(1978年)インポテンス研究会としてスタートしました。当時性に関する先進国である欧米でもまだ性機能についての本格的な研究がスタートしていない時代で、International Society for Impotence Researchが設立され、第1回 World Meeting on Impotenceがパリで開催されたの1984年であることからわが国の研究会のスタートがいかにか早かったかがお分かり頂けると思います。研究会設立の翌年早々(1979年1月)東京の薬業会館で記念すべき第1回インポテンス研究会が開催されました。その後研究会は年2回のペースで開催され11年間22回の研究会が開催されました(第1回から15回の研究会の記録は一括してIMPOTENCE 1(1):28-43、1986に、16-22回の記録も機関誌に掲載されています)。その間研究会の規約や機関誌「IMPOTENCE」の発行など学術団体としての体裁も整い順調に発展して参りました。そこでインポテンス研究会は発展的に解消し、1990年1月1日をもって日本インポテンス学会に移行し、その後学会の名称も日本性機能学会に改められて今日に至っています。このように本学会は研究会時代を含めると31年、42回目の学術集会に当たります。研究会発足当初から泌尿器科だけでなく、外科、特に腹部・骨盤外科、内科、心療内科、精神科、産婦人科、基礎から解剖、生理、薬理等多くの専門領域の先生方(役員名簿:IMPOTENCE 5(1):66、1990参照)のご参加を得て今日の学会の基礎が出来ました。若い会員の皆様にはこの良き伝統を守って本学会の更なる発展に努めて下さることを期待しています。